

目的 衣服の着用感を向上させるためには、衣服着用時の不快感を包括的に洗い出し、着用感に作用する総合的な因子について検討する必要がある。そこで本研究ではブラジャーに着眼し、その着用感に関するチェックリストを作成し、ブラジャーの着用感について総合的な検討を行った。

資料および方法 まずブラジャーの総合的着用感に関するチェックリストA(項目選択形式)、B(合否併列形式)を作成し、学生30名を対象にチェックを行った。調査結果には因子分析を施してブラジャーの着用感の潜在的要因を抽出した。さらにチェックリストA、Bではチェックしにくい体型、動作、デザインに関して着用実験のためのチェックリストCを作成し着用実験を行った。用いたブラジャーはすべて市販品で、被験者は本チェックリストの詳細な設問に解答することのできる被服学科4年生6名を選んだ。実験の要因と水準は体型一(乳頭位胸囲一下部胸囲)が12.0 cm以下をAカップ体型、12.0~14.0 cmをBカップ体型とする2水準、デザイン—ブラジャーA、B、Cの3水準、動作—胸部、肩部に関係が深い9動作と正常姿勢をとりあげ10水準とした。項目はアンダーバスト、カップサイズ、脇の上端、肩ひもの位置、バストポイントの位置における正常姿勢および動作時の適合性である。判定は外観と着用感について5段階で行い、データの解析は累積度数に基づく三元配置の分散分析法によった。

結果 ブラジャーのデザインにより体型適合度が著しく異なり、体型別にブラジャーの設計を行う必要があることがわかった。